

理科(物理) 岐阜大学 教育学部、化学・生命工学科除く)、
 応用生物科学部、医学部 (医学科) (前期) 1 / 1

<全体分析>

試験時間 教・工学・応用生物科学部 1科目で120分
 医学部 1 2 3 2科目で120分

解答形式

記述式、空所補充、選択式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年出題されている論述問題、描図問題がなくなった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	単振動・落体の運動	物理 基礎・物理	水平に飛び出した小球と、単振動するおもりとの衝突の問題。基本的には、それぞれの物体の運動について式をたてればよい。最後の設問だけは、単振動の式の位相の部分掘り下げて考える必要があり、難しい。	標準
2	空所補充 選択式 問形式	電磁誘導	物理	時間と共に変化する磁場内でのリングに生じる誘導起電力の問題。多少見慣れない設定ではあるが、定義通りに解けばよい。	標準
3	問形式	薄膜の干渉	物理	定番の題材である薄膜の干渉の問題。ただし、光路長を求める部分が類型問題とは異なるので注意が必要。光路差の式は誘導に乗らずに、知識で対応することも可能。	標準
4	問形式	気体の変化	物理	3室に分かれた気体の混合問題。物質とエネルギーに注意して、問題の流れ通りにひとつずつ手順を追えば難しくはない。問3で指示されている状態1の内部エネルギーが、状態1の容器Aの気体だけを指すのか、容器Aと容器Bの気体を合わせたものを指すのかが明示されておらず、紛らわしかった。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています

<学習対策>

まずは、教科書などで基本事項をしっかり学習しよう。標準的な問題集に取り組み、その後、設問の誘導にしたがって解き進む力を養いたい。公式の意味を説明させる問題が出題されることがあるので、公式の丸暗記でなく、その意味も理解しよう。また、描図問題が出題されることもあるので、その練習もしておこう。計算力もつけておきたい。